

コースNo.6 2佐賀県立美術館から幻の大庭園観頤荘跡地

起点 佐賀県立博物館前 距離3.1キロ  
見所 近世前期ではトップレベル規模の大名庭園跡を想像しながら歩く  
コース概略 ①出発

- ②美術館西の素敵な小道
- ③南堀端
- ④シャボン玉公園先の橋を左（南）
- ⑤この地点から観頤荘の広さを実感する歩き
- ⑥角を右（左） 西の区域は庭園内
- ⑦島義勇の像手前で左（西）
- ⑧横断歩道を渡り左（南）
- ⑨次の交差点を右（西）
- ⑩佐賀大学前交差点手前を左（南）しばらく直進
- ⑪この道を一旦通りこし、⑫の後に戻り東へ
- ⑫佐賀共栄銀行手前水路。ここが庭園の南境
- ⑬東野七左衛門の屋敷跡 令和4年10月解体
- ⑭突き当り三叉路を右（南）
- ⑮龍造寺隆信ゆかりの宝琳院
- ⑯北へ一直線
- ⑰⑤のところに戻り、実感歩きは終了南堀端を歩く
- ⑱副島種臣の石碑も寂しそう
- ⑲「赤松小学校前」交差点の手前を左（北）へ
- ⑳佐賀の役殉国十三烈士の碑、すぐゴール



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



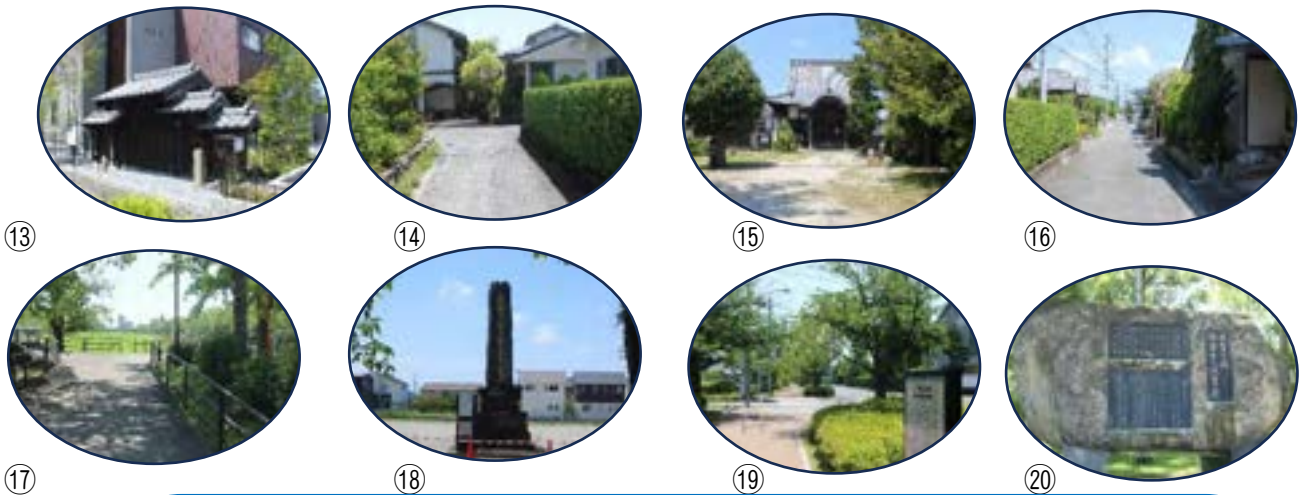
⑩



⑪



⑫



観頤荘は三代藩主、鍋島綱茂が佐賀城の西に設けた大名庭園で、いわゆる日本の三大庭園よりも早い時期に、大規模に作られました。原稿を入力するとき『頤』の字が出てこなかったため、手入力をするとおとがいという読み名が出てきました。下あごや下あごの先端のことをいうようです。上記中尾先生の著書によれば「観頤」とは「養うところを観る」という意味であり、身体を養う飲食だけでなく、徳を養うための心の修養もいうということです。解体されるにはそれなりの事情があったのでしょうが、もし残っていたらもう少し心豊かなおじさんになっていたかもしれないと感じる心の狭いページ作成者でした。